

<曲目紹介> アルトゥーロ・マルケス作曲 **Danzón No. 2**
～アンコールまで興奮の坩堝（るつぼ）になっていただけただけかな？～

こちらもついに来ました！水星交響楽団南米スペクタクルのトリを飾ったのは、メキシコの偉大な現代作曲家であるアルトゥーロ・マルケス（1950-）の代表曲 **Danzón No. 2**（ダンソン・ヌメロ・ドス）です！

いやーこれがやりたかった！マルケスさん、こんな名曲を作ってくれてありがとう！グスターヴォ・ドゥダメルさん、私にこんな素晴らしい曲を教えてくれてありがとう！シモンボリバル・ユースの皆さま、PROMS での素晴らしい演奏をありがとう！アルファさん、選曲会議での賛同ありがとう！

さて、ラテンクラシック界史上に燦然と輝く至高の名曲と言える **Danzón No. 2** ですが、作曲されたのは 1994 年、当時 44 歳のマルケス閣下はメキシコ国立自治大学の依頼を受けて作曲したようです。初演も本大学の学生オケということで、水星交響楽団と同様に非常にアクティブなオケですねー。Cool！Exciting！

第 2 番は親しみやすく、初演後メキシコ国内ですぐに話題沸騰！**Danzón** シリーズの代表作として大ヒットしました。イメージビデオまで製作されているんですよ！今ではメキシコの第 2 の国歌といわれるほど、メジャーな曲になりました。

もともと **Danzón** シリーズは、93 年にマルケスがキューバを訪れた際に現地のダンスミュージックである **Danzón** に触れたことが、アイデアのきっかけになったそうです。この素晴らしい音楽を自身の管弦楽法でアレンジしたら楽しいのでは・・・そんなマルケスの野望が燃え滾ったのでしょう。帰国後次々に作品を発表していく中で第 2 番の大ヒットとなったわけです。今でも健筆衰えず、**Danzón** シリーズは 20 番を超えております。ただ個人的にはやっぱり 2 番が圧倒的にカッコいいかなー。脱線ですが、2013 年サザンの復活ライブでのファンクラブ向けアンケートで、ライブのオープニング曲をファン投票で決める企画があったのですが、第一位は『海』という 1984 年に発表された曲だったようです。（筆者も『海』に一票入れました・・・）やっぱり古い曲が好き、そう思えるのはサザンだけでなくマルケスもなんだなーと思ってしまいました。

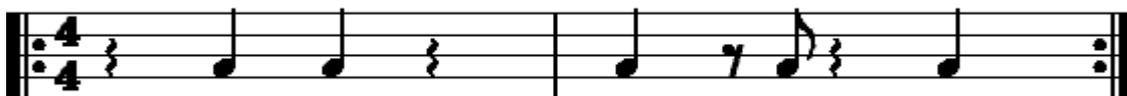


マルケス閣下です。カウボーイハットがお似合い！

さて、曲の中身です。冒頭はクラリネットのネっとりしたソロで始まります。テンポ記号は **Danzón**。ヒネリなし！伴奏はピアノとラテン打楽器の定番クラベスが担当します。クラベスは 2 本の木を叩いて、ラテン音楽のリズムパター

ン「クラベ」を刻む楽器。今回のリズムパターンはキューバダンス **Danzón** の特徴「すっカンカンすっ、カンすカンすっカン」（いわゆる2：3）です。このパターンは終盤を除いて速くなっても遅くなっても基本ずっと一貫します。このあたりはキューバ留学の成果でしょうかねー。

【Danzón No.2 頻発のクラベパターン】



冒頭のクラベスの刻みからいろいろな楽器がこのリズムを刻む。

2小節単位でずーっとこの本パターン。小節をひっくり返した「3：2」パターンは曲の後半で出現。

序盤はまるで女性が男性をダンスに引き込もうと誘っているかのような音楽ですね。クラのソロが途中で入ってくるオーボエ（男性？）と交わりながら、曲はジンジン盛り上がり、弦楽器とギロ（！）に受け継がれていきます。

印象的な3連符のフレーズを終えると曲は美しいピアノソロの短い展開部へ。うーん、ピアノおいしいです！本日のピアニストはロデオのホンキートンクを弾き終り意気揚々のセニョリオ・シャ・オルガス！この日のために本場メキシコに近い新百合ヶ丘から来日した生粋のラテンピアニストです！



アンコールのピアニストを拝命したセニョリオ・シャ・オルガス氏。

握りしめたボトルは自身の名を冠したワインですが、なんとメキシコ産ではなくスペインのバレンシア産らしい。今回の水響ラテンスペシャルのためオファーを快諾いただいた生粋のラティニーヤ。特技は国土無双の被弾と終電逃し。

曲は何回かの **Accel** を経て、本邦最高の盛り上がり全オーケストラによる **Con fuoco** (=炎のように、熱烈に) に到達します！指示に炎とか書いちゃう作曲家ってすごいですねー。さすがマルケス！ファイヤーできたかな！？

ここでアンコールの目玉（主観）のラテンパーカッションが烈火のごとく総登場します！！今回ラテンパーカッションは **Mr.WARAO** の特別編曲でお届け。この編成はシモンボリバル・ユースの太鼓セクションを上回る楽器群を配置した水響打楽器陣のまさに総力戦！おそらく **Danzón No.2** 演奏史上最大の超豪華編成です！この編成を実現するため、数多くのラテン楽器をお貸しいただいたトロンボーン奏者 **K** さんに大感謝！**Special thanks Mr.Kubota**！

Con fuoco はオーケストラ全奏による第 1 主題と弦楽器+ギロによる第 2 主題で構成され、全曲中で何度も形を変えて登場します。特にこの第 2 主題はメキシコでは超有名。観客の皆様におかれましては是非「2：3」で手拍子をお願いしたいところ！！

その後曲は緩・急をつけながら進んでいくのですが、やはり根底にあるのは前述の「2：3」。艶めかしいコンミスのソロの裏でも、気の抜けまくったトランペットソロの伴奏でも、耳をすますとラテンのリズムが際立っています。くうー！

最後の大団円はパターンをひっくり返した「3：2」。冒頭よりも早いテンポ設定の **Con fuoco** で、曲を最高潮に盛り上げたのち、コーダへ。pp から徐々に楽器が重なり、血沸き肉躍る fff への強烈なクレッシェンド。もう盛り上がりすぎて何が何だか！

人間の奥底に宿るラテンの血が、ブラームスの激的なフィナーレを経て **Con fuoco** で一気に表出する、そんな演奏会になっていれば取り上げた甲斐があるというもの。うー！バモス！！打ち上げはテキーラ！！！！

近年ベネズエラの若手指揮者グスターヴォ・ドゥダメルのアメ리카やヨーロッパでの活躍もあり、**Danzón No.2** はラテンクラシックの代表格として、いよいよワールドワイドに取り上げられるようになってきました。今後日本でも演奏機会が増えると思われるこの名曲、本日はお楽しみいただけましたでしょうか。

あー早くもう一回演奏したい。

See you Next Season ! Bye !

(★湘南の狼★ 2号)